

視聴覚教育

月報

No. 14

発行日 1954

発行 岡崎市小中学校

視聴覚教育協会

編集 視聴覚教育協会

調査

印刷 岡崎 明大寺

株式会社

TEL. 340. 2532

学校視覚教育

夏期講座に参加して

八月三日より三日間、東京において行なわれた文部省と日本学視連との主催になる、学校視覚教育夏期講座に参加したもようをここに報告いたします。

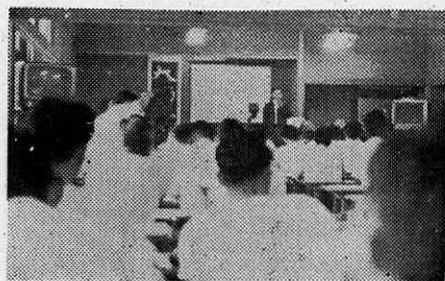
会場は目黒区の東急修学旅行会館にて行なわれ、全国各地より約二百名ほど参加しました。岡崎より愛宕小の川辺先生と私と二人が参加しましたが、県内からは他に参加者がなく、いささか淋しい感じがしました。

八月三日朝出発午後一時の開講式にすべりこみエフ。開講式と日程説明の後東大の海後教授による「新指導要領と視聴覚教材」についての講演があり、ここで教材としての教科書の変遷について話が進められ、続いて教科書以外の教材と

して言うより教材の幅を広く考えた視聴覚用具の使用が進められていることと、新指導要領と視聴覚用具の使用とについて話されました。つぎにシンポジウムとして「十年の歩みをふりかえって、これからのAV教育の進むべき道を探求する」と言う論議で国立研究所、東大、文部省、都主事、映画教育協会の人々の意見が出されました。これらの人々の意見によれば、十年間において浸透していきな

いと言う人と、いや浸透している、と言う対立した意見とが出されましたが、製作者側としてはフィルム製作の面からは増して来ていると言われ、又利用面からは各教科の人々で教材を研究しなれば現在の状態では不足であると言う意見

も出されました。後日にも話題になったが、映写技術専門教師ができ、その人以外は映写機をいじらない学校があるという話も出た。又視覚教育と放送教育の対立の激しい所があるが、これの打破が必要であるとも言われた。このような論争が午後五時まで行なわれ、夕食後、クル



八時より「テレビ教材について」と題して「夏のテレビ教室」編輯の時間をみてそれについての話し合いと、テレビの学校での使用方法についての話し合いがされました。テレビの学校における台数は親子テレビを利用して少くとも学生に一台は必要であると言われ、学校に一台

い別に視覚教育実践の当面する諸問題について話し合いました。この時感じたことは県により巡回映画システムで教材映画を廻しているところが非常に多いと言ったことです。しかし東京の一部の区や京都市の一部ではフランチ、ライフラーリを持ち授業に有効にフィルムを利用して居る所も

ありますが、学校によつては学校中の職員が映写機を扱えるが他の学校では数人の教師だけが機械を扱えて後のものは扱えず、このような学校のフィルムの利用率も少いということが話し合われました。午後九時までこのような話し合いがありその後一時間半ほど試写会があり一日目の日程が終った。第二日目には七時朝食

しかないような所ではほとんどがいつのまにか宿直に座り込んでしまふと言うことで、できれば各学級に一台当テレビを配置してほしいものである。テレビについてこんな話があった。青森のある山の上の中学校がテレビを入れて購取を行うようになり、その後卒業し東京に就職しましたが、以前卒業した子より早く秘会

の生活に同化出来、雇う者から喜ばれていると言った話がありました。技術研究としてスクリーンの明るさ、光源についてエルモ社と北辰の人の話があり、教材分析と指導法の研究としては、社会と理科の実際フィルムを用いた授業についての実践報告がなされました。このようにして、(次号上段へ続く)

(前頁下段より) 三日間外出する時間も
なく、しつかり日程がまわっていました。
二日目の夜はリクリエーションがあり、
亦国自慢コンクールで何かやれば自分
の土地のPRをかねて非常によい。来年
出られるかには腕もみがいておいた
だきだ。今年ほど学視連大会の開催地の
群馬と明年の京都はPRをかねて多勢で
盛大にやられた。

第三日は昼食後、希望児学地へ後班か
に分れてバスで会場より分れた。

矢西小 白井 央一

新着フィルム の解説

小学校社会科利用

◎しゅうぼうのおじさん 十一分

消防に働くおじさんたち、時には己れ
が危険をおかしてまでもみんなの安全の
ために働いてくれる人たちの姿を画き
ながら、安全な生活についてのくふうや協
力する心をあこさせるよう、わかり易く
えがいた低学年向の社会科映画です。

利用できる学習単元

第二学年「私たちの安全を守る人々」

第三学年「皆の協力できる安全な暮らし」

◎おじやさん 十四分

この映画は、低学年の社会科学習に利
用できる教材として製作されたもので、
この映画を利用して達成できる主な目標
と内容は次のようである。

第二学年(新指導要領)

目標 (2) 人々の生命財産を守るための
各種の仕事やその意味について具体
的に理解させる。

内容 (9) 警察官、消防官、医師などは
いろいろの不幸から皆の生活を守る
ための仕事を休みなくつづけている。

◎商業のはたらきシリーズ

2. 小売り店ーかんがつやー 十七分

各社教科書の第五学年商業に関する単
元がもっとも密接な関連をもっている。
低学年「物産の交流」中学校「経済」に
関する学習を進める上にすべて役立つも
のといえよう。

◎商業のはたらきシリーズ

1. テーパー 二十一分

テーパーのしくみやはたらきについて
多角的にとらえたこの映画は、社会科の
教材として十分な内容を持っている。テ

パートをはじめ、小売店、問屋、市場な
どのような商業のはたらきに関連した内
容は、主として小学校社会科の第五学年
で学習することになっている。

利用できる学習単元

第二学年「みせ」

第三学年「大きなとかい」

第四学年「都市のはたらき」

第五学年「生産をすすめる商業」

これからの工場

ーオートメーションの話ー

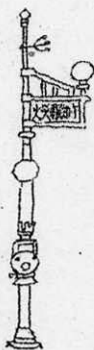
パンの製造工程を例にして、従来の手
工業の工場と近代的機械化工場とを比較
しながら、オートメーション化された工
場の合理的、能率的なことを解説する作
品である。

なおこの映画で注意を要することは、
オートメーション方式と流し作業方式と
は異なることをよく理解させておくこと
である。

利用できる学習単元

小五学年「手工業から機械生産へ」

中二学年「近代工業の発達」



八ミリ合評会

八月四日、五日の両日、技術部員始め
九名の先生方が三ヶ根山頂で開催された
県主催八ミリ映画撮影講習会に三河全体
より参加した約六十名の人々と共に一泊
して、八ミリ映画界ベテランの関益氏を
囲んで撮影実習に汗を流し撮影のコツを
学んだ。その内容は他日機会をみて報告
するとしてその時各自が撮影した作品を
近日持ち寄って上映批評会を開催する予定
でこの道に關心のある諸先生方と共に大
いに研究したいと思えます。



七月九日、九月四日と三日間にわた
り映写機の定期修理を行った。特に北辰
関係は二日共業者技師の方と、分解組立
までの技術修得をしていたのだが、中
には熱心のあまり映写レンズの分解をし
技師の方を苦笑させる光景もあつた。
映写機は全体に一回の注油が多く、ほり
等と一語になり歯車のよこれが目立ち、
年に二回程はクリスを小さ取る様にし、
フィルム輸動機構はたえずホコリやゴミ
を小さくしておくようにしたいものです。



10月の教材映画

十月には教科と関係のあるフィルムがかなり多くあるので、教材を進められる上に参考として利用されることを希望してあります。

体育として

- スタンツ
- 徒手体操
- 集団行動 など

があり、これらは口ではなかなか指導しにくい面をわかり易く、手にとるよう説明してありますので、一、二度上映すれば理解出て、すぐに体育の時間にそして運動会の集団行動上に役立つものだと思います。

社会科として

- 新聞の働き

新聞のもつ社会的使命と、新聞社の機構、新聞の記事あつめから印刷されるまでなど、かなり広範囲にわたり説明と解説が入れられており、新聞社見学以上の理解ができるものです。

- 大昔の生活

(小六)

● 武士のくらし (小六・中二)
この二本は歴史教材の内容であります。特に「武士のくらし」は

封建制度の根本である江戸時代の大名の組織を中心とした武士生活の概要を系統的に解説したものであります。

中等程度の十五万石大名会津米沢藩にスポーツをあてその姿を説明したものの、「何万石」というその録高はどういう意味か、

武士は士農工商といわれ最高の地位にある。

その武士の中には大名から下は足輕に至るまで数段の格式が歴然と決められ階級的な組織がしっかりと確立されている。

藩内でのそれぞれの役目の仕事はどんなことをするのか。

武士の日常生活はどんなであったか。特に興味をひくものは武士の家庭生活のありさまであろう。

- 通 算

(中三)

- 田んぼの水

(小五)

- 日本のデนมアーク農場

(小五)

理科としては

- 月と星

(小五)

これとは別に「動く地球」という教材フィルムもあるがこの「月と星」の方が小学校向のようであろう。内容は、

・ 月とは夜の天体観測を月から始めました。天文台の望遠鏡から宇宙を静かにのぞいてみると……

・ 月は地球から最も近い天体で、太陽から光を受けて光って見える。

・ その表面は篝火口のように、何の变化もない沈んで死の世界のよう。

・ 月のみちかけは、月令とは、

・ その他の惑星は、

・ 惑星よりも遠い所にあつて、近じものでも四光年もかかる程のところにある。

・ 大宇宙には、いくつかの小宇宙があり地球はじかに小さいものがわかるだろう。……と結んでいる。

● 採光と通風 (小六)

易に救えてくれます。
● 空気のカ (小五・中一)
さがさにしたコップの水を下からあし上げてこぼさない空気の圧力の実験から大気の圧力ということに気づかせ、各種の実験をしてみせながらより大気の圧力を理解させようとしたもの。
● 植物の一生 (中一)
えんどうの実験を通して植物がどんな一生をたどっているかを速度撮影によつてみせてくれる。
● 植物の運動 (中一)
これもえんどうの実験が中心となり、根や芽ののび方、向日性、背他性運動などをかたばみやおじぎ草は葉の伸縮性などのようすをみせてくれる。その理由などは画面を通して理解出来る。
その他
● 昆虫の変態 (中一)
● ビタミンの知識 (中二)
● 機軸関係では (中三)
● ラジオの話 (中三)

教材映画研究部

川 史

撮影のポイント

1. ロングよりアップ

八咫映画は画面が小さいので(三五絛×四・八絛)虚景のロングシヨットより近づいて被写体を大きく(アップ)した方が効果的ですが、アップの技術はイタリア映画が得意とする表現技法でそれが邦画でも非常に進歩していると思えます。

映画館で、その技法を学んで来るのも一法でしょう。

8ミリの知識

泉屋堂 鈴木只夫

LS(ロングシヨット) 遠景↓場所の説明、風景の描写に使われ、十乃至十五秒間は写しておきたし。

MS(メテイアムシヨット) 近景↓場所の紹介や数人の人の紹介に使われたり、速業で見せた場所の一部をさらに詳しく見せる時に使う。

FS(フルシヨット) 全身像↓だいたい一人一人をおさめるほどの大きさのシヨットで主としてからだ全体の動きをとらえる時に使います。

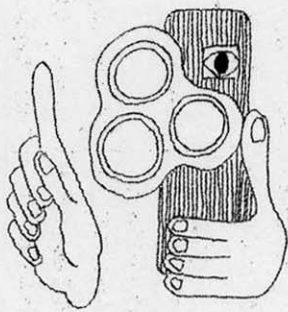
BS(バストシヨット) 半身像↓人物の胸から上位のサイズで人物の紹介やのカットインシヨットに使います。三秒乃至五秒写しておきたし。

CV(クロースアップ) 大写し↓顔が画面一杯になるサイズであるが、顔だけに限らず、手、足を撮ることによって細部をはつきり見せ、被写体を強調したい時に使います。三乃至四秒が普通です。

2. パンはむやみにしないこと

広大なパノラマ的風景動く被写体を追って上下左右にカメラを廻しながら撮影することをパンと言います。(俗にナメルともいう)スタル写真では味わえない魅力だから誰しも写したがるものですが注意すべきことを左記します。

- ・三脚使用により水平を注意
- ・パン速度は出来るだけゆっくりと
- ・右へパンしてすぐ左へもどるといふようにカメラをかりまわさない
- ・パンの始めと終りは三乃至四秒間止めて撮っておきたし
- ・三脚のない時は二十四コマで撮るとス



4. シヨットは長いものにしよう

一シヨットの長さは大体五秒前後ですが目的によつては三乃至十五秒内で撮るようにならば良い結果を得ると思えます。

4. シヨットは長いものにしよう

一シヨットの長さは大体五秒前後ですが目的によつては三乃至十五秒内で撮るようにならば良い結果を得ると思えます。

始めのうちは一シヨットが短かすぎて画面がいかにあわただしい感じを受けます。かといつて長すぎても間がぬけてしましますし……俗に「お富さん」を唱いながら撮影したら大いと言います。料な黒屏 御典の松に、を最短と考え、あだな姿のお富さん

ん々まで一シヨットとしたら大理想的なものができると言われます。

5. スプリングモーターは常に一杯に

一回シヤッターを押したら、あと必ず巻く習慣をつけられれば撮影途中でゼンマイがなくなり、折角のシヤッターチャンスを逃してしまつてしまうミスもなくなりましょう。万一撮影途中でなくなつてしまつたら同じ場所を続けて撮ると不自然になつてしまつたら、ホシシヨットアンクルを変えて写して下さい。

6. 夜間撮影はパライトで

ASA10、40という低感度ですから夜間はパライトを使用するのが簡単ですが被写体とパライトとの距離で露出が変るとに十分注意して下さい。

夜でも明るい所ではF14、8コマで撮影するといふ手もありますが、この場合動くものを入れると不自然になりますから注意を要します。

以上で撮影技術はOK、いよいよシナリオ作製↓撮影↓編集↓映写を兼ねむわけですが八絛としては百フイート(八分二十秒)か二百フイート(十六分四十秒)が適当な長さでしょうからこの点を考慮に入れて企画し、あまり難かしく考えずまずシヤッターを押してみましよう。以上